

教科(科目)	工業（染織デザイン）	単位数	3	学年(コース)	3学年(産業デザインコース)
使用教科書	実教出版株式会社 『 染織デザイン 』				
副教材等	文部科学省後援色彩検定公式テキスト2級編				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

～卒業までにこのような資質・能力を育みます～

- ①主体的に課題を見つける感覚を養い、自ら学び、解決策を創造する資質・能力と産業社会で求められる倫理観と規範意識を育成します。
- ②生涯にわたって学び続ける意欲を養い、新たな産業に柔軟に対応する自己指導力を育成します。
- ③国際的視野に立って考える姿勢を養い、地域の発展と豊かな暮らしに貢献するために必要な思考力、発想力を育成します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～

- ①共通教科の学びを強化して、基礎学力の定着を図ります。
- ②工業高校で学ぶ基本的な知識や技術を習得し、課題研究や新しいIT技術について、主体的な学び方と実践する場を設定します。
- ③将来、国内・国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や英語力の向上を図り、多様な価値観を持つ仲間との協働的学習を行います。

2 学習目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、繊維製品の染と織のデザインに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 繊維の染と織についてデザインの技法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 繊維の染と織に関する製造技術や染織加工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 繊維の染と織のデザイン性を備えた繊維製品を創作する力の向上を目指して自ら学び、繊維産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

繊維及び繊維製品を織物や編物などの製造技術と染色や仕上げなどの加工技術とを包括したデザインの視点で捉え、工業生産と相互に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、繊維製品の染と織のデザインができるようにすることに重点をおいて指導する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・繊維及び繊維製品を開発するために、繊維の染と織についてデザインの技法を工業生産と関連付けて理解するとともに、繊維及び繊維製品の服飾やインテリアなどへの実用における様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	・繊維及び繊維製品を織物や編物などの製造技術と染色や仕上げなどの加工技術を包括したデザインに着目して、繊維の染と織に関する製造技術や染織加工に関する課題を見いだし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、繊維及び繊維製品が社会に及ぼす影響に対し責任をもち、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。	・繊維の染と織のデザイン性を備えた繊維製品を創作する力の向上を目指し、服飾やインテリアなどへの活用について自ら学び、繊維産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	色彩と色彩計画	12 デザインのための色彩	色彩調和	・色々な配色技法を学び、カラーカードを使って演習問題に取り組むことにより、配色スキルを身に付ける。	4	ワークシート (記述点検) 出席状況 授業態度 課題提出状況 中間考査得点
			配色イメージ	・イメージ別の配色法を学ぶ。	4	
			ビジュアル	・ビジュアルデザインにおける色の役割や使われ方、メディアのデザインの基本的な色の知識について学習する。	4	
5	定期考査	1 学期中間考査			1	
6	色彩と色彩計画	9 デザインのための色彩	ファッション	・ファッションコーディネートの基本的なイメージや分類についての考え方を学び、色彩調和で学んだ配色技法がファッションでどのようにいかされるかを学習する。	3	ワークシート (記述点検) 出席状況 授業態度 課題提出状況 2 級過去問題 期末考査得点
			インテリア	・住空間のインテリアにおける、各部屋の目的にあったカラーコーディネーションを学ぶ。	3	
			景観色彩	・景観色彩にかかわる基礎知識を学習するとともに、生活環境における街並みの景観を整える視点から、景観の色彩設計の配慮すべき事項について学ぶ。	3	
7	定期考査	7	2 級過去問題	・色彩検定 2 級レベルの力を身に付ける。	7	30
	定期考査	1 学期期末考査			1	
8 9	テキスタイルと造形	24 基礎造形	自然物・人工物の観察	・観察の態度について学ぶ。 ・視覚の転換について学ぶ。	4	ワークシート (記述点検) 出席状況 授業態度 課題提出状況 中間考査得点
			デザインの要素と美的秩序	・形態、色彩、テクスチャーについて学ぶ。 ・形態構成の要素について学ぶ。 ・構成の原理(美的形成の原理)を学ぶ。	10	
			視覚と錯視	・形態の認識について学ぶ。 ・視覚の錯誤について学ぶ。 ・視覚の法則について学ぶ。	10	
10	定期考査	2 学期中間考査			1	
11	ユニバーサルデザイン	24 色のユニバーサルデザイン	色覚タイプによる色の見え方	・色のはたらきを活用するためには、特定の色を正しく表示したり、人に伝えたりする方法を知っておく必要があるため、色を「記号で表す方法」と「言葉で表す方法」を学習する。	8	ワークシート (記述点検) 出席状況 授業態度 UC 級過去問題 期末考査得点
			高齢者の見え方	・高齢者の見え方や、日常生活における注意事項、色の使い方の配慮について学習する。	8	

			色の UD の進め方	・色のユニバーサルデザインの観点からさまざまなデザインの設計や修正のポイントを事例とともに学習する。	8	50
	定期考査	2 学期期末考査			1	
12 1 2	テキスタイルと造形	10 テキスタイルと人とのかわり	歴史的流れ	・織物の誕生について学ぶ。 ・時代の変遷とテキスタイルについて学ぶ。	5	ワークシート (記述点検) 出席状況 授業態度 課題提出 学年末考査得点 25
			伝統・流行とテキスタイル	・伝統と染織品について学ぶ。 ・流行とテキスタイルについて学ぶ。	5	
	装飾様式と室内装飾	14 伝統と先端	日本の伝統繊維産業	・日本伝承の染織品と文様について学ぶ。 ・日本の繊維産地について学ぶ。	5	
			学習課題	・日本の伝統文様を参考にして、新しい文様をデザインする。	9	
	定期考査	学年末考査			1	

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・カラーカードを貼って PCCS トーン別明度一覧表を完成させて提出します。
- ・カラーカードを使って自分で配色を作る配色演習の課題を提出します。
- ・学期ごとに授業用ワークシートの提出があります。(ノートチェック)
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(調べ学習など)

8 担当者からの一言

「デザインのための色彩」では、私たちの生活における色の見え方や配色デザイン、ファッションやインテリアについて理解を深めます。さらに、近年私たちの生活において重要な情報源になっているメディアのデザインについても取り上げることで、色彩検定 2 級レベルの力を身に付けることを目標としています。また、「色のユニバーサルデザイン」では色覚特性による見え方の違いについて学習します。これはデザインを行う上で知っておかなければならない知識であり、UC 級レベルの力を身に付けることを目標としています。さらに、「基礎造形」として観察・デザインの要素と美的秩序・視覚と錯視を学び、最後に日本の伝統的な染織品と装飾文様の特徴、日本の繊維産地について学ぶことで、新たな伝統文様を考察します。このように、あらゆる媒体における染織デザインについての基礎的な内容を学習することにより、実践的な内容につなげていきます。